

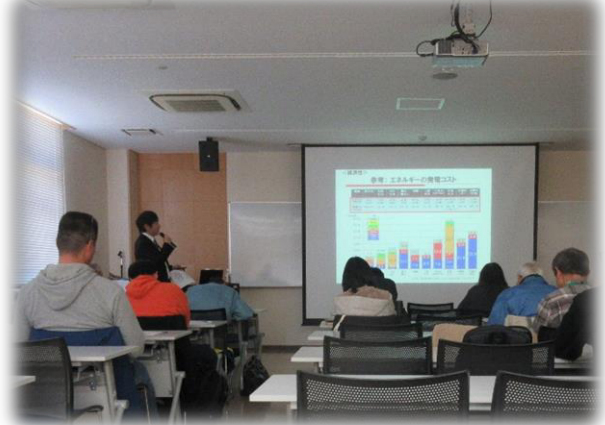
静岡市環境大学2019 講座報告 15日目

演題：環境とエネルギー

電気事業連合会 広報部長 伊藤友宣様

場所：沼上資源循環学習プラザ（しずもーる沼上）3F

時間：10：45～12：00



要点1：エネルギーを考える上で、最も必要な視点（S+3E）

- Sとは ……「安全確保（Safety）」
- 3Eとは ……「エネルギーの安定供給（Energy security）」 「環境保全（Environmental conservation）」 「経済性（Economy）」

要点2：電気事業者の地球温暖化対策～CO₂の少ない電気をつくる～

- 各電源の組み合わせによるCO₂削減→原子力や水力(再エネ)を多く利用する国ほど発電時に発生するCO₂は少ない
- 再生可能エネルギー拡大によるCO₂削減→固定価格買取制度(FIT)により日本の太陽光(発電時にCO₂出さない)発電の導入量は年々伸びている。
- 火力熱効率の向上によるCO₂削減→ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせたコンバインドサイクル発電などの発電設備を導入することで化石燃料を節約し、CO₂を削減している。
- 革新的技術の開発→低炭素社会の実現に向けて、環境負荷を低減する火力技術である「石炭ガス化複合発電」と「CO₂回収・貯留技術」の開発に積極的に取り組んでいる。
- 国際貢献を通じたCO₂削減→全世界の延べ52カ国が、地球規模での省エネルギーや省CO₂に資する取り組みを展開している。

要点3：まとめ

- 電気の特性(貯めることができない、需要と供給のバランス)を踏まえた対策が必要である。
- ひとつですべてを満たす電源はない＝SDGsの観点からも、エネルギーミックスが必要である。

受講生の感想

- ◆CO₂を有効利用する取り組みが行われていることを初めて知った。
- ◆電力会社目線の様々なデータや考えがあつてとても参考になった。